

議会報告会 会場報告書

担当班： 第3班 班代表者：荒木礼子

概 要			
地区名 : 篠山地区 日時 : 令和6年11月10日(日) 午前10時～午後11時30分 場所 : 城下町会館 参加人数 : 3人(男3人・女0人)	【出席議員】 荒木礼子 本多紀元 堀毛宏章 渡辺拓道 隅田雅春 岡 圭子	(1) 開会あいさつ : 荒木礼子 (2) 議会報告 : 堀毛宏章 (3) 質疑応答 : (4) 意見・提言等 : (5) 閉会あいさつ : 堀毛宏章	挨拶・総括 : 荒木礼子 司会進行 : 本多紀元 報告 : 堀毛宏章 記録 : 岡圭子・渡辺拓道 会場(マイク) : 隅田雅春

【主な質疑】

質疑・意見(第一部 議会報告について)	回 答
現在の本市の課題はどんなものがあるか。	子育て教育、3高校問題、ささやま医療センター存続の問題、様々な分野での担い手不足など。
ささやま医療センターについて。兵庫医科大学との協定が令和7年に切れるが、全く歩み寄れないのか。その後はどうなるのか。	現段階では撤退する方向と思われる。その後のことを兵庫医大側も、岡本病院、にしき記念病院と、業務内容や職員の問題など、協議を図り検討している。
地域医療というのは丹波市、丹波篠山市合わせてのことを言っているのか。医療センターの存続問題は市が中心なのか。県のサポートはないのか。	ここでの地域医療とは市内のことである。医療センターの存続問題は市が中心となる。県からも話をしてもらったが、効果はなかった。

A 子育て・教育支援のために必要なこと

B Aを実現するための課題と対策

【参加者意見・ソフト】

1. 親の負担の軽減
 - ・ひとり親への支援が必要
 - ・共働きため、急病時の学校の迎えなどで負担がある
 - ・仕事等で送迎ができない時は、子どもの習い事を休ませるしかない
 - ・塾へ行ける子と行けない子がいる。教育や体験格差解消のために、放課後を利用して学習塾機能を設けてはどうか
2. 子どもの居場所支援（放課後）
3. 子どもの登下校の安全対策
秋の人通りの多い時期に小学生下校時の見守りがないことに不安を感じている

【『課題』参加者意見・ソフト】

1. 塾まで距離のある地域への支援が必要
2. 放課後、塾のような勉強等を教えてくれる人材の確保
3. 城下町地区として、観光客が多い時期の通学路の対策（人と車対策）や、通学路の防犯対策

【『対策』参加者意見・ソフト】

1. 習い事等の送迎支援として、送迎バスの運行やタクシー等への助成
2. 学校や児童クラブ等に放課後塾を設置するなど
3. 下校時に合わせて、地域の大人が外作業をして地域全体での見守りやミュージックサイレンの活用

【『課題』参加者意見・ハード】なし

【『課題』参加者意見・ハード】なし | 【『対策』参加者意見・ハード】なし

A 子育て教育のために必要なこと

- （市全体として）
1. 負担軽減のための保護者への支援が必要
 2. 子どもたちの居場所づくりや教育や体験格差をなくす施策（城下町地区として）
 1. 通学路の安全対策が課題で、特に秋の観光シーズンの子どもの通学時の安全対策が必要

B 解決するために必要なこと

- ・保護者への支援と子どもたちへの支援の両面からの支援
子どもの習い事等送迎支援など
子どもの居場所づくり
- ・地域全体で地域の子どもを守る（みる）取り組み
- ・城下町地区での観光シーズンにおける子どもの安全対策

【考察】参加者の意見から見えてくるもの

- ・人間関係が希薄化している中で、子育てをまち全体の課題として捉えており、子どもの居場所づくりと親への支援が必要と考える。
- ・保護者が行う子どもの送り迎えについて、特にひとり親や塾等まで距離のある地域の家庭、共働き家庭等、負担軽減のための直接的な支援が必要。
- ・城下町地区では、観光シーズンに混雑する人と車に対する安全対策が課題であるが、児童の下校の安全については、特に対策を講ずるべき課題である。
- ・児童の下校時刻に合わせたミュージックサイレンの吹鳴は、地域の人の子どもを見守る仕組みが出来ると共に、地域コミュニティにもつながると考える。